

## 日本海南西部における 2 そうびき沖底の主要対象種であるアカムツ・ソウハチ等とムシガレイの月別・漁区別漁獲量について

水産研究・教育機構水産資源研究所  
水産資源研究センター

令和3年10月26日にWeb会議として開催された令和3年度マダラ本州日本海北部系群、ムシガレイ日本海南西部系群、ソウハチ日本海南西部系群およびニギス日本海系群の管理基準値等に関する研究機関会議において、2 そうびき沖底の主要対象種であるアカムツ・ソウハチ等とムシガレイの月別・海区（底びき網漁業等の農林統計において設定されている海域区分）別漁獲量比に関する意見が挙げられた。

本資料では、日本海南西部における底びき網漁業の管理方策検討の一助とするため、沖合底びき網漁業（2 そうびき沖底、浜田以西）の漁獲成績報告書に基づき、主要5種（アナゴ類、キアンコウ、ソウハチ、ムシガレイ、アカムツ）の漁獲状況を整理した。

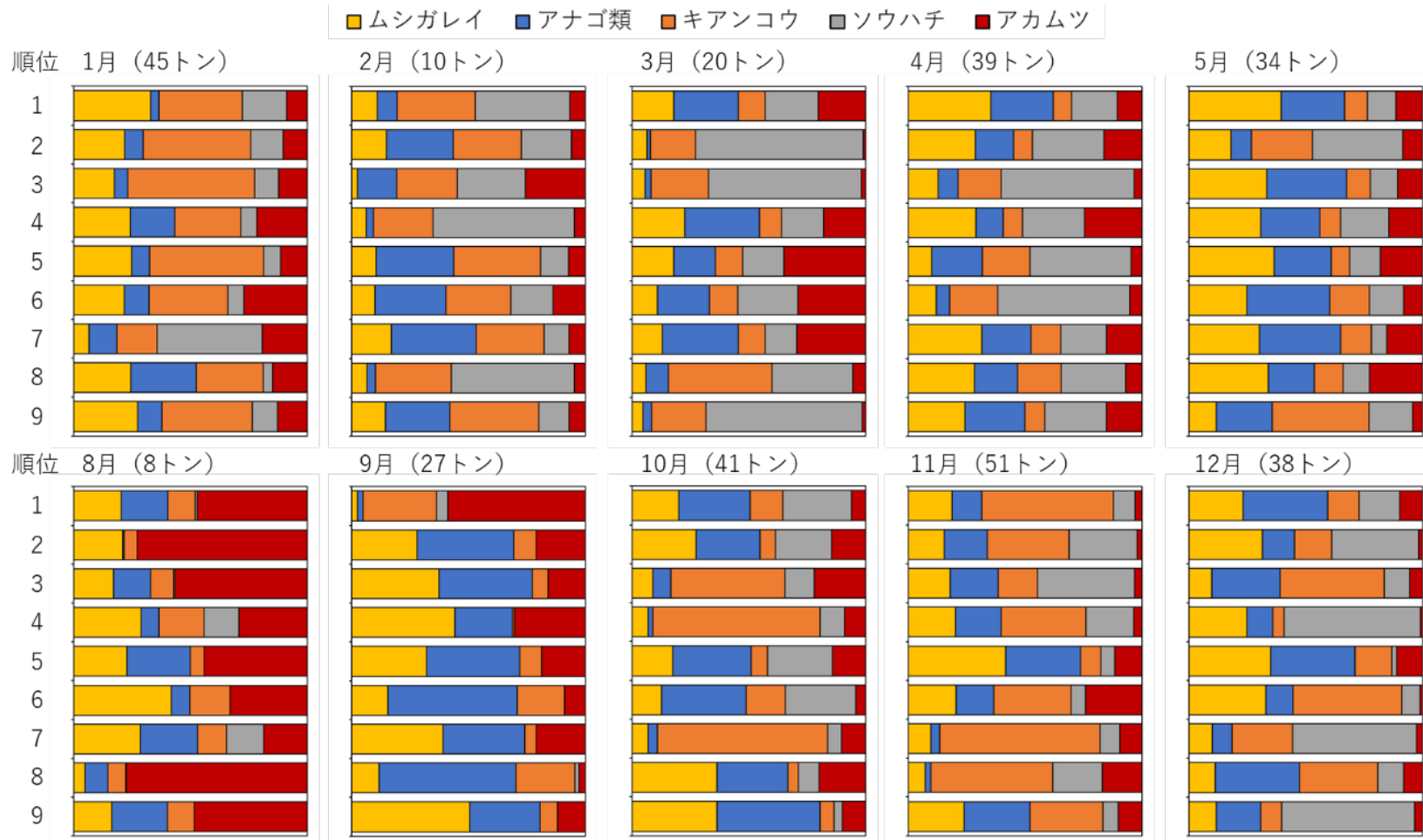
2020年各月のムシガレイ漁獲量の上位9漁区（底びき網漁業等の農林統計において設定されている10分升目の区分）における漁獲量割合を図1に示す。2 そうびき沖底における2020年のムシガレイの漁獲量は313トン、月別には8～51トンの範囲にあり、2月（10トン）と8月（8トン）に少ないものの、明瞭な盛期は認められなかった。ムシガレイの漁獲量割合が50%を超える漁区はいずれの月においても確認されず、アナゴ類、キアンコウ、ソウハチなどと同時に漁獲されていると考えられた。8月にアカムツ、10～2月にキアンコウ、10～5月にソウハチと同時に漁獲されることが多く、アナゴ類は周年、ムシガレイと同時に漁獲されていた。以上のことから、アカムツでは集中的に漁獲される時期、漁区がある一方、ムシガレイは周年、アナゴ類、キアンコウ、ソウハチなどと同時に漁獲される傾向にあると考えられた。

2020年の各魚種の漁獲量上位3漁区における漁獲量割合を調べた結果（図2）、アカムツが多く漁獲された漁区では、9月にキアンコウの割合がやや高かったものの、アカムツの割合が極めて高かった。ムシガレイについては、5月に比較的高い割合を示したが、漁獲量が多かった11月の漁区ではその割合は低く、アナゴ類、ソウハチ、キアンコウなどと同時に漁獲されていることが示された。一方、ソウハチやキアンコウでは漁獲量の多かった漁区において、それぞれの漁獲量割合が最も高かった。このことから、ムシガレイは現在、今回対象とした主要5魚種の中でも特に他魚種と同時に漁獲される傾向の強い魚種であると考えられた。

2018～2020年の月別、海域別（130°以西、130°～131°、131°以東）における主要5種の漁獲量割合を調べた結果（図3）、ムシガレイの漁獲量割合は周年を通して130°～131°および131°以東で比較的高く、130°以西では低い傾向がみられた。8～9月の130°以西および130°

～131°でアカムツの漁獲量割合が高く、特に 130°以西で高い割合を示したが、10～12 月はキアンコウの漁獲量割合が最も高くなっていた。

以上のように、日本海南西部の 2 そうびき沖底において、最重要魚種であるアカムツの漁獲量割合が高い時期や海域と低い時期や海域が存在することが確認された。本資料は、今後、本海域における MSY ベースの資源評価対象種であるソウハチやムシガレイについて、資源評価結果や分布特性に加え、同時に漁獲される各魚種の資源管理方策の検討に資することが期待される。



1. 2020年各月のムシガレイ上位9漁区における漁獲量割合. 月の横の括弧内の数字はムシガレイの漁獲量を示す。

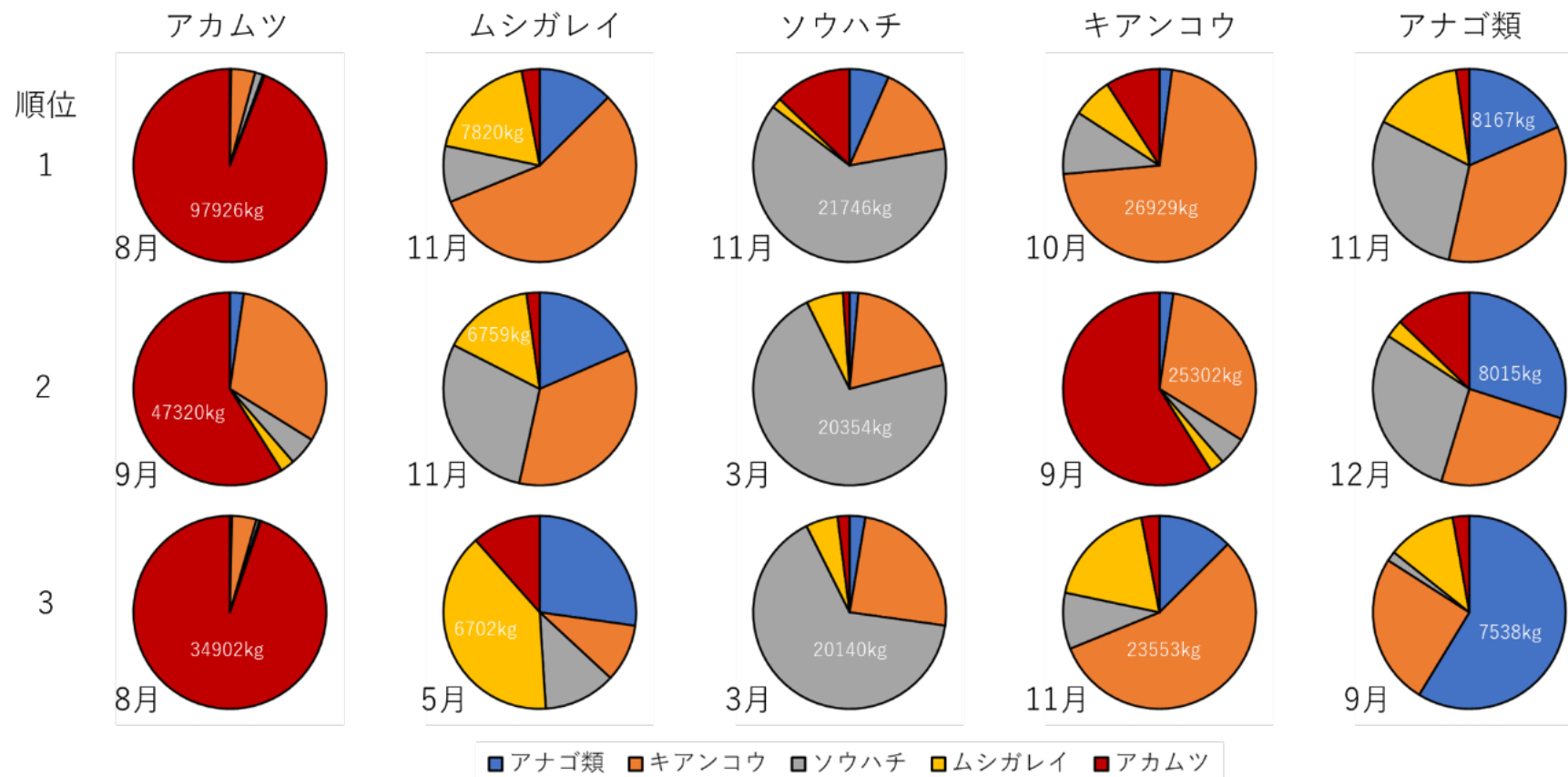


図2. 2020年の主要5種の上位3漁区における漁獲量割合.

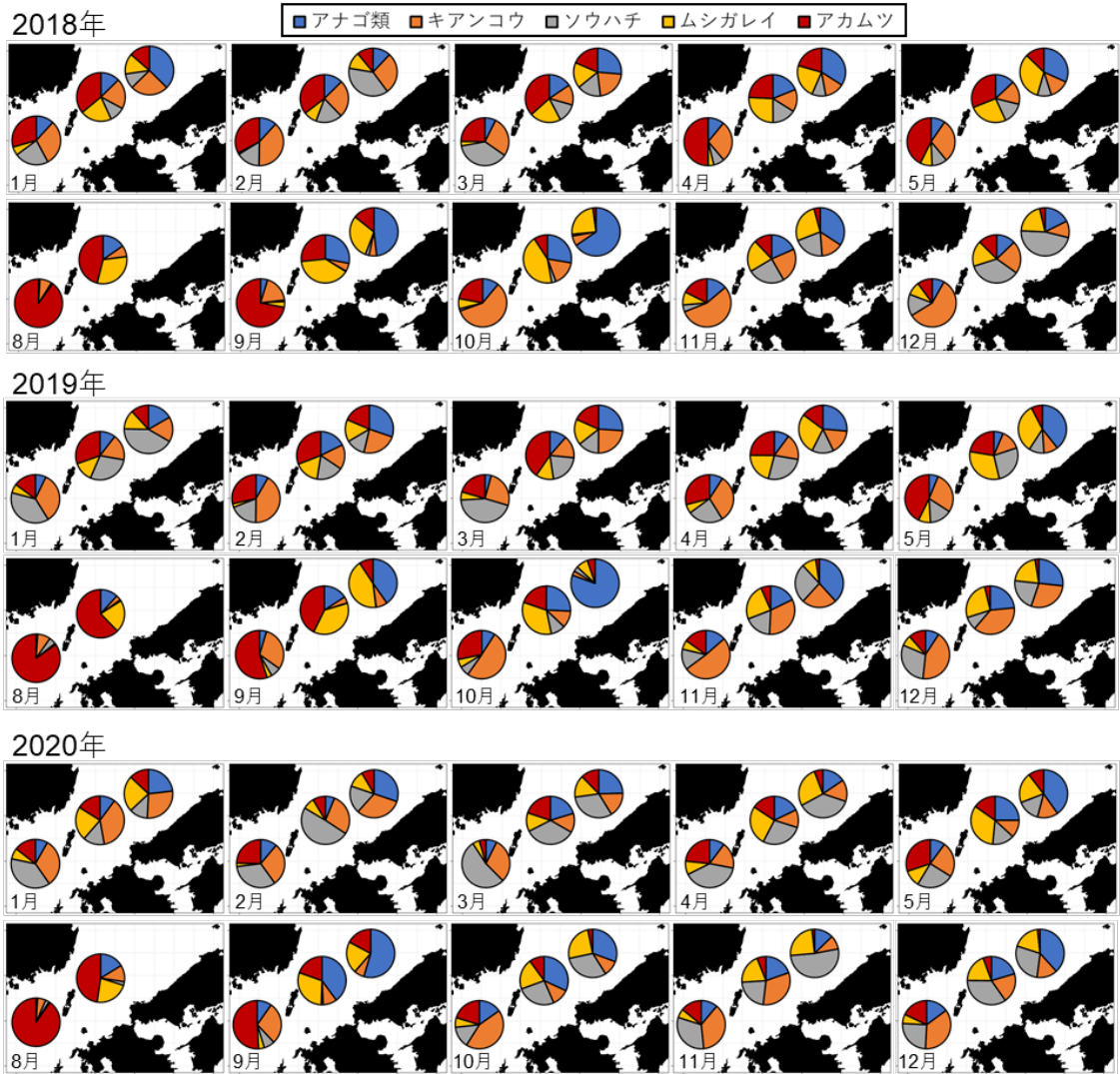


図3. 2018～2020年における月別、海域別（130°以西、130°～131°、131°以東）の主要5種の漁獲量割合。